中外日報 H20 6/26

雑記

曹洞

人心荒廃に危惧

●宗務庁は二十四日、法定祭典をもって福山務法管長（大本山永平寺貫首）の管長就任式を挙行した。大本山総持寺のこと、道元・瑩山両祖遺骨（貫首が祀師を兼ねたので）に続いて、福山管長の言葉を引きながら、すべてが不殺生の尊厳を掲げる其生の存在であることを述べたで管長就任式の後、勇旨五回連系祭議会が始まった。開会式で福山管長は「人類は物質文明が繁栄したが、精神面の荒廃の兆しがあること、危機感を示すとともに、「宗門が果たすべき責務は重要な時期を迎えている」と期待の言葉を述べた。

が重示＝写真。「人心は荒廃し、殺傷事件が頻発し、自然破壊の進行は憂うべきものとなっている。人命はもとより、山水も命そのものである。尊い存在であること誰もが気づき出いもの」と、道元・瑩山両祖遺骨（貫首が祀師を兼ねたので）に続いて、福山管長の言葉を引きながら、すべてが不殺生の尊厳を掲げる其生の存在であることを述べたで管長就任式の後、勇旨五回連系祭議会が始まった。開会式で福山管長は「人類は物質文明が

アメリカ仏教の実践

▽SOTO禅インターナショナル（＝SZI、福島伸悦会長）は十六日、講演会を明世し、ガリフ、アムズ教授が「仏教思想」と題して講演した＝写真。会場には修行僧に加え一般の参加者も詰めかけ、アメリカ仏教の由来や特色を明瞭にたヴダンカン氏はハーバード大学で博士号を取得。「禅のエコロジー」などの著書があり、カリフォルニア大学バークレー校では日本学研究所長を務める。広沢寺原陸元住職のもとで得度し、曹洞宗の僧籍を持つ。講演はすべて日本語で行なわれたヴダンカン教授は、アメリカの開拓の歴史は通常、カウボーイなどが東海岸から西へとフロンティアを目指したが、西海岸からの移民者仏教と同時期に、東海岸に「フックブッディズム」と呼ばれる、本や美術から仏教に関心を持つ人々が起こったことを紹介。さらに、アメリカ仏教思想が研究されて、禅を中心とする仏教ブームが起こるまでを指摘した。質疑応答では、アメリカ人への坐禅指導方法、アメリカ仏教が生み出した女性の立場について質問が寄せられた。

では「フロンティアが西から東へと移動したと解説。十九世紀後半から西洋人や浄土真宗の開教使が移民とともに西海岸に渡り、仏教が伝わったというマ来た、インド・中国・日本からアメリカへと仏教が東漸する中で、文化が混り合う「ハイブリッド」の重要性を指摘。ハイブリッドには、土着化に上り変容する面と、変化せずに伝えられる面があると語り、アメリカ仏教には禁欲的なメロディーに合わせた賛仏歌と、日本の読経を踏まえたものの二つがあると紹介。自ら朗誦して披露したヴ西からの移民者仏教と同時期に、東海岸に「フックブッディズム」

法話会にぜひお申し込みください
公(株)黄瀬
曹洞宗専門
ゼロ七五六九九三二三番